

## チャネルキャットフィッシュの脅威 — 張網内での捕食実態

○古旗峻一（茨大水圏セ）・所 史隆・根本隆夫（茨城水試）・加納光樹（茨大水圏セ）

アメリカナマズ科に属するチャネルキャットフィッシュ *Ictalurus punctatus* は、北アメリカ原産の雑食性淡水魚で、日本の自然水域では1982年頃の江戸川での初確認以降に分布を拡大し、現在では福島県から滋賀県の複数の水域に定着している。霞ヶ浦において本種は2000年以降に優占する外来魚種の一つであり、水産資源や漁業、在来生物群集に様々な影響を及ぼしていると考えられている。特に、漁業においては張網（定置網）の内部で、本種が他の漁獲物を捕食することが大きな問題として認識されている。しかし、本種による張網内での捕食実態については、漁業者等からの定性的な事例報告があるのみであり定量的に調べた事例はない。そこで、本研究では本種による張網内での捕食実態を把握するため、2016年6–8月（夏季）と2017年3–5月（春季）の各月に、霞ヶ浦の大室地先の沿岸帯において張網の一晩掛けで入網した本種計71個体（体長15.0–57.6 cm）の胃内容物における各餌料生物の個体数、体サイズ、湿重量を計数・計測した。さらに、本種と同時に入網した魚類・甲殻類各種についても同様のデータを収集した。調査期間中の本種の胃内容物からは、魚類8科14種、甲殻類1科1種が確認された。本種1尾当たりの魚類・甲殻類の捕食量は、平均22.7個体（35.7 g）であった。本種が湖沼に定着し増加した場合に、このような漁業被害が生じる可能性があることを理解し、このような被害の発生を未然に防ぐために侵入初期の段階で早急に対策を講じることが望まれる。



図1 張網内での漁獲物の捕食で腹部が膨れたチャネルキャットフィッシュ



図2 チャネルキャットフィッシュの胃内容物

左の写真：5月の体長428mmの胃内から出てきたウキゴリ239個体

右の写真：7月の体長576mmの胃内から出てきたワカサギ101個体